

令和7年度南区地域包括ケア推進会議 議事録

- 1 日時 令和7年12月4日(木) 14:00～15:30
- 2 会場 福岡市南区保健福祉センター 講堂
- 3 出席者 委員(24名中22名出席)、事務局(21名)
- 4 次第

- | | | |
|---|---------------------------------------|------|
| 1 | 開会 | |
| 2 | 委員紹介・事務局紹介 | |
| 3 | 議事 | |
| | 【議題1】南区の高齢者の概況及び事業報告等..... | 資料 1 |
| | 【議題2】令和6年度地域ケア会議の開催状況..... | 資料 2 |
| | 【議題3】令和7年度の各専門部会報告及び取組み状況 | |
| | 在宅医療・介護部会..... | 資料 3 |
| | 権利擁護部会 | 資料 4 |
| | 生活支援・介護予防部会 | 資料 5 |
| | 【議題4】福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について..... | 資料 6 |
| 4 | その他 | |
| 5 | 閉会 | |

5 会議経過

【議題1】南区の高齢者の概況及び事業報告等..... 資料 1
・資料に基づき事務局が説明

【議題2】令和6年度地域ケア会議の開催状況..... 資料 2
・資料に基づき事務局が説明

【議題3】令和7年度の各専門部会報告及び取組み状況
○在宅医療・介護部会..... 資料 3
○権利擁護部会..... 資料 4
○生活支援・介護予防部会..... 資料 5
・資料に基づき部会長が説明

●議題1から3について、質疑等

会長	【議題2】について 会議に出席されている方の人数は、コロナ後から増えてきているか。会議自体は各地で広がっている様なので、新しい方など参加者の広がりというところを伺いたい。
事務局	多職種の方が会議には参加しており、コロナで来れなかった方も、グループワ

	<p>ーク等で活発に意見交換し、久しぶりに会えてよかったとの声も多数いただいている。多数の方が会議に参加していただいております、広がっている状況である。</p>
会長	<p>とても重要な会議だと思うので、色んな方に声をかけて、もれなく参加していただくというのが地道な活動だと思う。今後も、色んな方に参加していただきたいと思う。</p>
委員	<p>【議題1】について</p> <p>西長住と弥永の高齢化率の順位が逆転しているのは、何か原因など特徴的なものがあるか教えてほしい。</p>
事務局	<p>西長住校区は資料の人数を見ると、人数が少なく、少しの人数で割合が変動しやすい状況である。昨年度も、2位の弥永校区と割合に大きな差がない状況であり、少しの変動で逆転したと思われる。第2包括から、西長住の校区の特徴を説明したい。</p>
事務局	<p>西長住は比較的大きな公営住宅と、長年住んでいる方の既存の戸建てや、一部賃貸住宅が少しあるような場所である。公営住宅や既存の戸建ての住民が高齢化しつつあるところである。</p>
委員	<p>【議題3】在宅医療・介護部会について</p> <p>ACPにおける「医療・介護関係者間の共有の課題」で、「南区として何か取り組みを行いたい」との声が上がり、ワーキンググループを立ち上げて、ACPにおける情報の共有について共通のツールを作っていると聞いた。進捗状況を教えてほしい。</p>
委員	<p>ワーキンググループで、支援者が書くシートを作っており、例えばケアマネジャーが行う担当者会議や、施設に入所が決まった時、急性期の病院に体調が悪くなって入院された時に使えるシートというのを作ろうとしている。</p> <p>既存の福岡市が出しているものは、本人が書く内容であるが、私たちが作ろうとしているのは、支援者側が、本人がこう言った発言をしていたと、ヘルパーや訪問看護スタッフが書くなど、その方の思いを、転機の時に支援者から集めようというものである。シートの愛称など色々考えている状況であり、入院した時に、ケアマネジャーがヘルパー事業所やデイサービスの担当者へ「あのシートを持ってきてくださいね」と声を掛けたり、病院の連携室が「あのシートをそれぞれください」と声を掛けたりして、集めるイメージである。</p> <p>本人が本当にどのように過ごしたいと思っているか、本人の象徴的な言葉を</p>

	支援者側が抽出して書くようなシートを作るように今動いている。
委員	入院とか施設に入る時に本人がどういう風に今後過ごしたいかを、本人の言葉そのままを書いてそれを掲載するということで非常に良い試みかと思う。これからもよろしくお願いいたします。
会長	ちなみに、シートの名称は仮にどのようなものか。決定ではなくともイメージだけでも教えてほしい。
委員	決定ではないのでイメージだけお伝えする。この取り組みを南区が発信したということで、南区発ということを残したいという話がワーキングメンバーの中で出ている。南区以外の住民が使うことがあると思うが、南区が発元ということで“南区”というワード。そして、みんなの思いを専門職がつないでいくということ、こういった“思い”とか“つなぐ”とか“南区”を踏まえてネーミングを考えた。年度内には発表する予定になっている。
会長	これは、誰が主導でシートを管理することになるのか。
委員	誰が主導ではなく、シートをどこかにアップして、専門職がいつでも誰でも書けて、次のところにボタンタッチをするもの。 気持ちは変わるものなので、その方が別のところに転機するときに、持ち寄る。本人が持つのではなく、支援者間でつないでいくものである。
委員	ACP は、変わるものなので、転機のタイミングで、支援者がそれぞれ書いて持ち寄るようなイメージを持っている。そして ACP を進めていく中で参考にさせていただき、例えば入院した先の連携室の看護師やソーシャルワーカーが話をする時に参考に使うようなイメージ。決めごとを書くのではないものである。
会長	ACP の各職種の考え方が違うというところで、共通認識を持たそうということである。

【議題 4】福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げる課題について.....資料 6

・資料に基づき各部会から出た課題とその背景について事務局が説明

① 在宅医療・介護部会

「ACP認知度の向上のため、関心が持てる広報手法の活用など、効果的な啓発についての検討」

「介護福祉士の多職種との目標共有の仕組みづくりについて検討」

② 権利擁護部会

「セルフネグレクトの高齢者への支援と体制の構築について」

③ 生活支援・介護予防部会

「デジタル(オンラインによる交流、GPS による見守り、LINE 等での情報共有等)を有効活用するとともに不慣れな高齢者への配慮(操作のサポートや従来の方法での情報伝達等)に加え、デジタルへの依存にならず、ぬくもりを重視する地域づくりの推進」

会長	各部会からの課題について、委員に、この課題に至った状況やご意見を伺いたい。
----	---------------------------------------

●出された意見

委員	<p>① について</p> <p>ACP は意思決定の過程であるが、どうしても延命治療の有無や、施設に入るか家で最期まで過ごすといった意思を決めて、それをつないでいくようなことになっていると思う。しかし、そこに至るまでの話し合いやプロセスを十分に踏んでいるのかという事が課題かと思う。先ほどのシートは間違っただけで家族の思い、例えば家族はもう家では見れないと思っているなど、そこだけが強調されて次に繋がってしまわないように、本人がどういったことを話していたかということを大事に書くようなシートにしようと思っている。急性期の病院でも ACP に取り組んでいるが、どうしても、治療に関する意思決定とか医療的なところに偏っていたり、ヘルパーが一番話を聞いているかもしれないのに、その本人の声というのが、届いていなかったり、そこが課題だと思い、先ほどのシートの取り組みにつながっている。</p> <p>2 番目の課題については、介護人材が不足をしていることと、外国籍の方が施設等では少し増えてきていると思っており、利用者側も外国籍の方が増えていることもあって、文化的な背景も色々違うので、これも今後取り組んでいかなければならない課題かと考えている。</p>
委員	<p>当院でも ACP には取り組み始めたばかりで、受け手側も ACP のことを全然分かっていないし、なかなか話を進められないという事実もあると思っている。その方が大事にしていることをシートの中で引き出せることをしていくと、ACP に繋がりがやすく、そこから話を広げていけるという事を聞いている。</p>
委員	<p>今の医療と介護の現場では、その人らしい生活や人生を守るために意思決定支援というところで、日々健闘していただいていると思う。本人に寄り添いながら思いを引き出し、本当にその人が今どう思っているのかを一生懸命皆で、できる限りその人らしい選択ができるような支援をしているところだと思う。</p> <p>一番迷うところは、本人が元気な時は良いが、認知症や、病気が進み、なかなか意思表示が出来ない、推測しなくてはならない場面で、皆さんとても迷い、家族もこの判断が本人の思っていたことなんだろうかという非常に負担が大きいという現状がある。この中で、ACP が、きちんと機能して日ごろから、色</p>

	<p>んな語りかけ、声掛けをすることで、本人の意思が些細な言葉からでもつかみ取れるような、そんな支援ができると、新しい環境に移った時に非常に役に立つ、本当にそう思う。</p> <p>意思決定支援をするという事は、その方がどんな人生を送ってきて、どういう考え方で、どんな風にこれからの人生を過ごしたいか、どんな事を大切にしたいかということがわかって初めて、その人らしい意思決定ができるころなので、是非この ACP と意思決定支援を二つの両輪にしながら、課題に向けてのシートを作っていただき、より多くの方が意思決定ができ、自分の望む最期を迎えられる、生活ができることに役立っていけばと感じた。</p>
委員	<p>2 番目の課題について、特別養護老人ホームに勤務をしているが、介護人材が非常に厳しい状況が続いている。南区だからというわけではなく全国的な課題になると思う。特に訪問介護のヘルパーなど、利用者が曜日を選ぶというよりはヘルパー事業所が空いている時間を探していくというような、ケアマネジャーが、そういう業務をしているのではないかとというくらい、人材不足は顕著だと思っている。その中で、外国人の人材の活用を当法人でも行っており、ミャンマー、ネパール、フィリピンそれぞれ二十名ぐらいは勤務しているような状況である。それでもやはりなかなか現場としては人手不足が否めない。このような状況がある中で、介護職員ひとりひとりとしては、利用者の希望とか望みとかを、ひとつでも叶えていきたいという思いを持ちながら対応するが、日々の業務の中で、燃え尽きてしまうような方も多いというのが現状だと思っている。そんな中で、私たちの業界の中で今、業務の住み分けというを色々やっている。介護施設の業務の中には、例えば、清掃とか、洗濯とか、ベッドメイキングとか、介護福祉士もしくはヘルパーではなくても、できることが多くあると思っており、地域の中で、高齢の方でもまだまだ働けると言っていただけの方に業務をやっていただいて、本当に介護のプロとしてやらなければいけないことは、介護福祉士やヘルパーがやって行く。 そのような業務の棲み分けも、現在進めているところである。南区の中でも、仕事のあり方や、まだまだ働けるという方を、どんどん掘り起こすというのは、すごくありがたい取り組みになっていると思っている。</p> <p>強いて言えば、そこが利用者の最後の望みを叶えていけるための人材を作っていくという意味では、ひとつ有効な手段となっていくと思ったので、少しだけ発言させていただいた。</p>
会長	<p>高齢者救急に関係している南消防署からはいかがでしょう。</p>
委員	<p>今までの話の中で、消防が関わっているのが、救急事案が多い。資料の中にも南区の救急搬送の現状という講義をしたという内容があったが、救急隊がい</p>

会長	<p>つも感じることは、最近独居老人、一人暮らしの方が多という事がある。現場に行くと、その人の情報がなかなかわからないということがある、救急搬送医療情報シート、安心情報キットが冷蔵庫に入っていると、活用させてもらっている現状がある。キット自体、救急搬送時用として置いてあるものだが、最近、南警察署の方も、現場に行ってその人の情報がわからないことがあることを、会合の中で話があり現物を共有した。現場に行って、例えば、ドアの裏側にシールが貼ってあったら、冷蔵庫の中に情報がある、と伝えたところである。そういったものが、かなり消防署でも助かると考えており、今後とも取り組みを進めていただきたい。</p> <p>色んな方がその方に関わる中で、色々な情報が消防署でも把握できるようなところがあれば、活用できるところは活用したいと思っている。</p> <p>南区医師会は先日50周年の記念行事があり、安心情報キットを社会福祉協議会に寄贈させていただき、活用してもらいたいという取り組みも行っている。</p>
委員	<p>② について</p> <p>セルフネグレクトの高齢者支援について、2グループに分かれてディスカッションした。</p> <p>今回課題としてあげる「関係者の対応力を高めていくことが必要である」ことについて、グループの中では、困っているのは、どちらかという住民と支援者であるという話がよく挙がった。本人は困っていない。</p> <p>ただ、本人は、家の中に色々な問題が絡って、最終的には健康疎外因子になるものをたくさん持っているという事があり、住民にとっても、本人にとっても放置はできないというのはある。しかし、なかなか信頼関係が築けない中で、そういうものを表出できないことが課題と思う。</p> <p>そこで、介入のタイミングについての話となった。例えば、介入のタイミングを逃してしまえば、その方はまた自宅に籠ってしまうことがある。その時の事例では、救急搬送されて、支援者の手が入るという時に、病院に情報が回っていないため、そのまま帰り、また元の生活に戻ったという話があった。事が起こった時にどう支援者が早く情報共有を行い、どう支援介入するのか、この対応力というのが大事だと感じた。</p> <p>この事例に対して、法律関係の委員から、セルフネグレクトを起こしていることが、周辺住民に対して問題化しているのであれば、そこは法的な切り口から、本人に理解、説得していく必要があるのではないかという意見を頂いた時に、私たち福祉職には、そういう感覚がなかった。だからこそ、福祉職だけでなく、法的な方も含めた支援が必要で、とても重要であると感じたので、関係者の対応力が大事ということ、事例の蓄積をして、うまくいった成功体験を共有していくことが、次なる展開になると感じ、今回のあげる課題にもつなが</p>

委員	<p>とと思っている。</p> <p>セルフネグレクトの方は、先ほどの議題の中にもあったが、一つの世帯の中でも複合的な課題のある世帯が多くなっているというのが日々の業務の中では、感じているところである。</p> <p>認知症の高齢者の支援に入った時に、統合失調症の息子がいて、さらにその下には、不登校の発達障がいの子どもがいるとか、複合的に色んな問題が絡まった世帯が課題であると、以前から話が出ていると思う。</p> <p>今、福岡市において重層的支援体制整備事業という、ワンストップの支援を目指していると思う。専門職として介入した時に、また違う専門職の方と、どう連携を取っていくかは、まだまだ課題が多いと感じる。それぞれの専門分野に関しては、それぞれの職種で進んでいくと思うが、専門同士の横同士の連携を図れないと次のステップに進めないことが課題としてあると思う。セルフネグレクトの方の支援に関しても同じと思うが、色んな職種が関わっていく中で、お互いの情報共有や連携を強化していかなければいけないと感じている。</p>
委員	<p>セルフネグレクトで一番問題になるのが、支援を拒否するイコール意思であるのとらえてしまいがちであること。本当にそれは本人の意志で良いのかという視点を少し持って、もしかしたら、恐怖だとか、不安だとかの表れで拒否をしている可能性もある。セルフネグレクトというと、何か固い意志を持って本人は拒否し、何も受け入れないということにとらえてしまうと、先ほど言われた様に、知らない間に医療に運ばれて、何も情報がないとそのまま帰ってしまうという事が起こってくる。</p> <p>そのため、一つの機関だけで支援していくことが難しいという認識を持って、その方を医療につなげるタイミングを、安全性と権利や意思のバランスを考えながら、多機関で連携していくところが必要だと思う。</p> <p>その一つとして、個別ケア会議で情報を共有しつつ、次のタイミングや、誰に何を伝えていくか、見守り体制はどうやって行くかというところの役割分担をしていくことが大切である。そこを皆さんに理解を頂き支援をしていただけるといいと思っている。</p>
委員	<p>セルフネグレクトという課題は、おっしゃるように難しいと思う。医療現場では、特に急性期では、治療したら早めに退院となり、その短いシフトの中で、どうやってセルフネグレクトなのか、本人の意思なのかを見極めるのは本当に難しいという事が一つ。</p> <p>あとは、実際セルフネグレクトだと思った時に、どこに連絡をするべきなのかも、実際私もよくわかってないので、そういうところから広報していくのも必</p>

	<p>要と思う。</p>
会長	<p>この課題は虐待含めて、我々 医療・介護全体でスキルアップしていかないといけない。そういう講演の機会もあったら良いと感じた。</p>
委員	<p>③ について</p> <p>デジタル化が進んだのは 2020 年の新型コロナの感染が広がった頃と考えている。その時にデジタル化は、受け手の方が望む望まないに関係なく、急速に突然に進んだというところが、時代の状況としたあつたと考える。デジタル化によってももちろん便利になったり、利便性が高まったりして、恩恵を受けた人たちもたくさんいる。その一方で、デジタル化の波に残された人、デジタル化について行きたいけどついていけない人、それからデジタル化自体に抵抗感がある人、様々な人がいて、そのデジタル化によって、例えば生活が困難だったり、もしくはその危険性が逆に高まったりしている場面があるのではないかと考えている。</p> <p>私たちは、両面から考える必要があると考えており、その中でも、特にまだ私たちが気づいていない、例えば、犯罪の面でデジタル化が急速に利用されていること、災害時の安全性の通知というのは、比較的進んでいるが、安全に避難するためにはどうするかというところは、やはり人の力、マンパワーが必要な部分というのもある。そういうところを、デジタル化だけではなくて、複合的にとらえて、取り組んでいくというの、デジタル化の中で必要と考えた。</p>
委員	<p>民生委員としては、デジタル化であったとしても、私たちの役目は1件1件回ることだと思っており、その部分は、きちんと残していかなければいけない。対面でやることによって、ようやく相手と信頼関係ができる。ラインとか、デジタル化の中では、なかなか難しい側面がある。我々見守る側からしては、やはり対面ということ、基本としなければいけないと感じている。</p> <p>私たちは、そういう風に課題がありますけれども、素人であるのでこういう場に参加し、情報を得て、皆につないでいくという事が一番基礎であると認識をしている。</p> <p>それとともに、もう一つ、直接つながるかわからないが、最近特に感じてる事は、独居世帯中で、身寄りが近くにない、全くないケースに結構出会う。このような方は入院するにしても、転居しようと思っても、誰が保証人になるのかなどの問題があるような気がするし、それに対して、どう取り組んでいくのかということも課題になると感じた。基本は対面がやっぱり基本だということは、はっきりと申し上げておきます。</p> <p>しかし、時代の流れは流れで、そこはきっちり対応していく。ここに書いてある例えば GPS による見守り、必要などころは必要だと思うが全面的に取り入れると、無理やりつけたりすると法的な問題が起きたりと、こういったデジタル化の問題については法的な面もあるんだなという点も踏まえてやっていきたいという気持ちがある。</p> <p>この課題を取り上げていただいた事は、大変ありがたいと思う。</p>

委員	<p>日ごろケアマネジャーという仕事をしており、自宅で暮らす高齢者の方の支援をする中で、この会議でこれまで課題に上がった ACP やセルフネグレクト、デジタル化の活用について課題を感じるが増えてきていると感じている。</p> <p>まず、ACP に関連するところでは、エディングノートを活用して、利用者や家族に、紹介することもあるが、私の伝え方が少し足りないのか、一回書いたら終わりと思われてしまうこともあり、ACP の繰り返し話し合いをして価値観を共有するという事を、うまく伝えられなかったということがあった。南区の思いをつなぐシートについても、今後活用したいと思っている。ツールの活用という事では、見守りネットワークや探してメールも活用している。今年の夏、自身でエアコン操作が難しい方の自宅のエアコンを、別居の家族がリモートで操作するようなことがあった。そのようなことを考えることが以前に比べて、増えてきていると感じている。一人暮らしや、身寄りがいない方がいることも背景の一つだと思っている。</p> <p>老人福祉施設協議会の会員施設が合同で行う研修会やイベント、事例発表会で会員施設同士の横の繋がりが深まるような取り組みが行われている。その中で、ACP に関連する勉強会があったり、それぞれの施設が行っている課題に対する取り組みの対応を共有したり、他の施設が行っていることを自分のところで取り入れたりとか、そういうことも行われている。</p> <p>小さなことではあるが、最近では家の最寄りの避難所がどこなのか、ケアマネジャーが自宅訪問の時に、利用者やご家族に伝えているという取り組みを共有し、他のケアマネジャーも取り入れたり、体調不良の時にどこに相談したらいいかわからないという時に #7119 の番号を教えてもらって、利用者や家族に伝えたところ、担当している半数以上の方が知らなかったため、伝えてよかったということもあった。そういう支援者間の横のつながりを深める取り組みも、大切と日々感じており、今後も取り組みたいと思っている。</p>
委員	<p>デジタルに関わらず、セキュリティという、パスワードだったり暗証番号、そういったものの管理が、高齢の方は苦手な方が比較的多い印象がある。最近よく何の電話かわからないから、知らない番号の電話には出ない方も多いかと思う。しかし、通帳には 4 桁の暗証番号が書いてあったりとか、そのあたりで、ちぐはぐさを感じてしまったりする。デジタルとは、少し違うかもしれないが、何でも今 ID、パスワードの時代なので、そういったものの管理がやはり苦手な方は何かあった時に、被害にあうなどのリスクが大きいという心配はしている。</p>
会長	<p>非常に今回活発なご意見をいただき、皆さんの思いや考えがよくわかりました。</p>
会長	<p>各部会からの課題について、福岡市地域包括ケアシステム推進会議に上げるということによろしいか。</p>

●議題 4 について修正・意見なく承認。

【その他】

会長	<p>○連絡事項</p> <p>南区医師会 50 周年を記念した活動のまとめ資料について紹介</p> <p>○質問</p> <p>地域連携 BCP の取り組み状況について各団体、自信をもってやっているというところがあったら、手を挙げていただけますか。</p>
委員	<p>訪問看護ステーション連絡協議会です。介護保険で BCP 計画を作らなければならないと令和6年に義務化され、なければ指導を受ける形となり、介護や障がいの事業所は、全部作っていると思う。そのあとにマネジメントしてるかどうかは、話が違うと思うが、確か年に 2 回ぐらい訓練とか研修をやらないといけないということも一緒に義務化されているので、やっていると思う。しかしこれが、地域の横のつながりになると、まだしっかりとした取り組みは、どの団体も今からというところである。</p> <p>訪問看護ステーションの連絡協議会に関しては、ライングループを作って、年に 1 回、災害が起きて、BCP を発動しないといけないことが起きている想定で連絡が取り合えるかの訓練を去年取り組んでいる。今年もう 1 回やろうと話をしている。</p>
会長	<p>行政の方では地域支援 BCP に関してどうか。</p>
事務局	<p>今まさに区役所の各部署の役割マニュアルを整備しようとしている。その中で地域の各事業者との情報共有というのが、必ず必要になってくると思うが、まず、区役所の横の連携マニュアルを作成した後、そのあたりについて、踏み込んでいく必要があると考えているが、まだそこまでは至っていない現状である。</p>

【閉会】

会議終了